

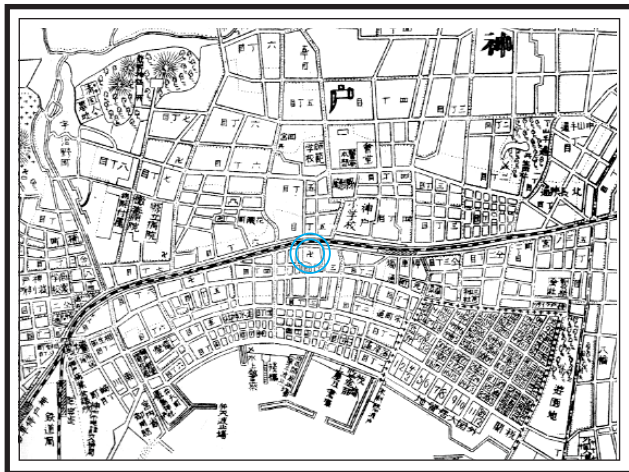
明治のなかばまだ人の

辻 憲男 (文学部教授・国文学)

映画を観たあとはコーヒーとケーキを…。そう思うだけで楽しくなる人は多
いにちがいない。じつはこの3つ、新しいもの好きの神戸で生まれた、一番“ハ
イカラ”な取り合わせなのだ。明治の初め、元町のお茶の店が日本で最初にコ
ーヒーを売り出し、次いで元町に洋菓子店が開業した。映画館の始まりは明治
のなかば、花隈にあった倶楽部だという。外国人居留地の目の前、神戸元町は
開港地の風が最初に吹き込む町だった。

神戸大阪間に鉄道が開通したのは明治7年(1874)。いまの神戸駅が終点
で、元町駅は三ノ宮停車場!と云い、高架ではなく路面だった。東京まで通じ
たのは22年。同じ年に神戸市が誕生し、西元町にあった区役所が市役所にな
った。初めて電灯がとまり、新聞が創刊されたのもこのころ。

閑話休題(それはさておき)、わが親和学園の創立は明治20年(1887)、
ところは元町通3丁目にあった真宗の善照寺。大正版『神戸市史』によると、
当時の神戸はキリスト者の女子教育が盛んで、各所で英語裁縫編物を教え、伝
道に努めたという。これに刺激された住職信徒が、友国晴子ら6人を教員に迎え、
英学漢学和学数学裁縫家事を教える日本主義の女学校を設立した。まだ人の目
ざめぬ時、町も教育も洋風風靡の中の運営はむづかしかった。苦節五年、東京
に学んだ校祖先生は下山手通に独力で学校を再建した。生徒はわずか2人、「幾
十年の行路難」の始まりであった。



明治30年の神戸市現図。善照寺の向かいに瓦せんべい屋があり、四角い
きんつばが名物になった。